園長通信～こころ～ №１４７

栄養教諭

2024.12.13

以前、奥会津の小さな小学校に勤務したことがある。幸運なことに、その学校は、自校給食だった。おかげで、熱々のおいしい給食をいただくことができた。給食の献立などは、同じ町の中学校に勤務する栄養技師の方のお世話になっていた。その方は、若かった。聞けば、まだ採用２年目だった。その方に、小学校に来ていただき、いわゆる食育の授業をしてもらったことがある。そんなに経験はないはずなのだが、授業がうまかった。小学生にわかりやすく説明していた。話し方もよかった。相手意識が感じられた。これを伝えたい、わかってほしいという思いが感じられた。数年前に、たまたま知った。その方は、栄養教諭になっていた。なるほど。少しも驚かなかった。向いている。適任である。

３月まで、市内の中学校に勤務していた。その学校も、運よく自校給食だった。献立や食材の発注などは、栄養技師の方が行っていた。その方も、生徒に食育の授業をしてくれた。これまた、授業がよかった。話し方がよく、思いが感じられた。聞けば、栄養教諭になるのが夢だという。栄養教諭になるためには、試験を受けなければならない。ここで、私のお節介癖が顔を出した。小論文に模擬授業と試験対策を行うこととなった。その方は、見事合格し、栄養教諭として活躍している。

現在勤務している幼稚園に給食はない。お弁当である。だが、月に一度のペースで、お隣の小学校のお世話になり、給食試食会を行っている。その場に、給食センター勤務の栄養教諭の方に来ていただき、園児たちの前でお話をしていただいている。その方が話すと、園児たちは、みんな興味をもって聞くのである。話し方がいいだけでなく、きっと使っている語彙が、子ども向けになっているのだろう。専門的な内容をかみ砕いて、わかりやすく伝えている。話の中に、必ず「えー」という驚かされる内容が入っている。だから、ますます集中して聞くようになる。言葉の変換装置が優れているのだろう。毎回、こちらが勉強させられる。先日は、ＰＴＡ教養委員会主催の親子食育講座に講師として来ていただいた。野菜たっぷりピザの作り方を説明していただいた。やっぱり説明がうまい。話にむだがない。

栄養教諭は、食に関する指導、学校における食育の推進において、中核的な役割を担う。学校で学級担任等と連携して、集団的な食に関する指導を行う。平成１７年度から配置されるようになった。今までに、２人の栄養教諭になる前の栄養技師の方と１人の栄養教諭の方と、たまたま出会うことができた。お三方に共通していることがある。それは、思いの強さである。食を通じて子どもたちに伝えたい、わかってほしい、やってほしいという熱い思いが感じられる。それを支えているのは、専門的な知識や技能である。栄養教諭の先生から学ぶことは多い。